

中部国際空港の物流拠点強化[Sea&Air]

協議会名:中部国際空港利用促進協議会Sea&Air分科会

協議会構成員
愛知県、岐阜県、三重県、名古屋市、名古屋商工会議所、一般社団法人中部経済連合会、中部国際空港株式会社、太平洋フェリー株式会社、株式会社フジトランスコーポレーション

【事業実施背景】中部地域発生航空貨物の約8割(約14.3万トン、年間3万6千台相当)が主に成田ヘトラック輸送、及びセントレア島内通関の一般貨物の4分の3(約8.5万トン、年間2万1千台相当)が主に成田ヘトラック輸送されている状況である。セントレアの貨物取扱量を増やすべく荷主、物流会社、航空会社の協力を得ながら他空港利用の貨物を中部利用のネットワークを再構築し事業を展開する。

事業内容

Point


トラックで各フォワーダーにより首都圏空港等へ転送されている貨物を、内航船で名古屋港に集め、名古屋港から中部国際空港にドレージ輸送。該当地区→首都圏空港等へのトラック輸送が不要に。国内有数のSea&Air輸送拠点としての中部空港の強みを発揮する。

※フォワーダー:航空貨物代理店
※ドレージ輸送:港に届いたコンテナを、中の荷物を出さずにそのまま大型トレーラーで空港等まで運ぶこと
※ROROターミナル:船:トラックやトレーラーなどの車両が、積荷を載せたまま自走して船に直接乗り降り(Roll On / Roll Off)するための設備が整った港湾施設・船



想定事業実施効果

【Sea&Airのメリット】

- ✓大量輸送によるコスト削減
- ✓長距離トラックドライバー不足解消
- ✓災害・混雑時のための代替サプライチェーンの確保
- ✓二酸化炭素排出量削減

中部圏はもとより日本国内の各種課題への対応に繋がる